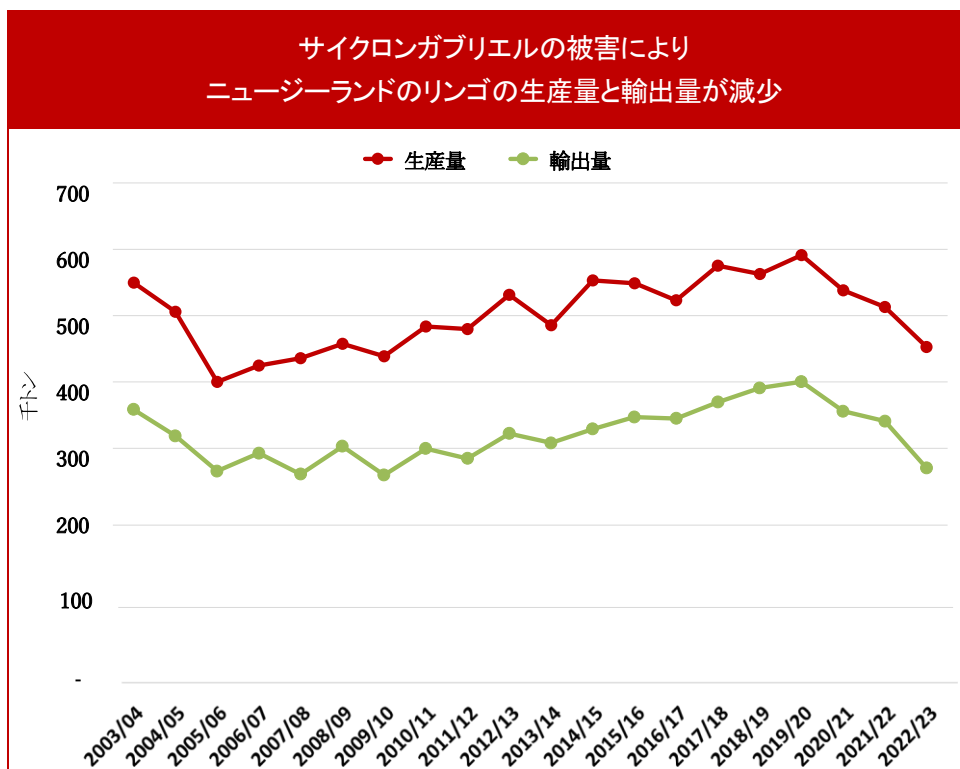


世界の落葉果実事情と市場動向(リンゴ、ブドウ、ナシ)

米国農務省海外農業局 2023年6月13日

ニュージーランドのリンゴ生産: 何年分もの利益を奪われた

ニュージーランドのリンゴ生産量は、2019/20年度にピークに達した後、3年連続で減少した。2020/21年度と2021/22年度の減少は、主にコロナ禍関連の労働力不足によるものであった。入国制限により、季節労働者の不足が深刻になり、果樹園の果樹を完全に収穫することができなかった。生産者はこれらの試練を乗り越え、ニュージーランドのリンゴ産業は2022/23年度に非常に良いシーズンを期待していたが、2023年2月のサイクロンガブリエルによって壊滅的な被害を受け、生産を拡大するための長年の投資が無に帰した。



2020/21年度以前は、降雪、厳しい降霜及び長引く降雨といった2004/05年度から2年間の悪天候が生産に与えた大きな影響から回復し、ニュージーランドのリンゴ生産量は長期的な増加傾向にあった。失われた生産量をゆっくりと回復し、2019/20年度には生産量(59万1,200トン)と輸出量(40万400トン)の両方で史上最高に達し、南半球の生産量の13%を占めた。この期間に栽培面積も拡大し、過去10年間のうち9年間で増加し、平均で毎年270ヘクタール近く増加した。海外市場の消費者が好む新しい多収性品種に転換するために大規模な投資が行われた。ニュージーランドは、生産量の3分の2を60か国以上に輸出している。輸出量は平均して世界の輸出量の5%、南半球の輸出量の20%を占めている。2021/22年度の主要市場は、中国、ベトナム、欧州連合(EU)、台湾、米国であった。

2019/20年度に続く2年間は、コロナ禍関連の減速にもかかわらず、増加率は減少したものの栽培面積は拡大を続け、古い園地を新しい品種に継続的に転換するための投資が続いた。過去数年間は、等級分けのためのカメラ技術や梱包及び積み上げのためのロボット工学など、梱包施設の自動化を進めて効率を向上させるための多額の投資も見られた。過去2シーズンは供給量が少なかったが、生産者は過去10年間のうち9年間で50万トン以上の生産量を維持することができ、コロナ禍関連の物流上の課題にもかかわらず、輸出量は平均35万トンであった。

これらの困難な季節を乗り越えた後に、2022/23年度は、コロナ禍以前の水準への生産量の回復に大きな期待を持って始まった。ニュージーランド及び世界中でコロナ禍の制限が緩和されたことで、物流が改善さ

れ、果樹園と梱包施設の両方で労働力の確保状況が改善した。さらに、生育条件は理想的であり、新しい果樹園の成園化が進んでいた。

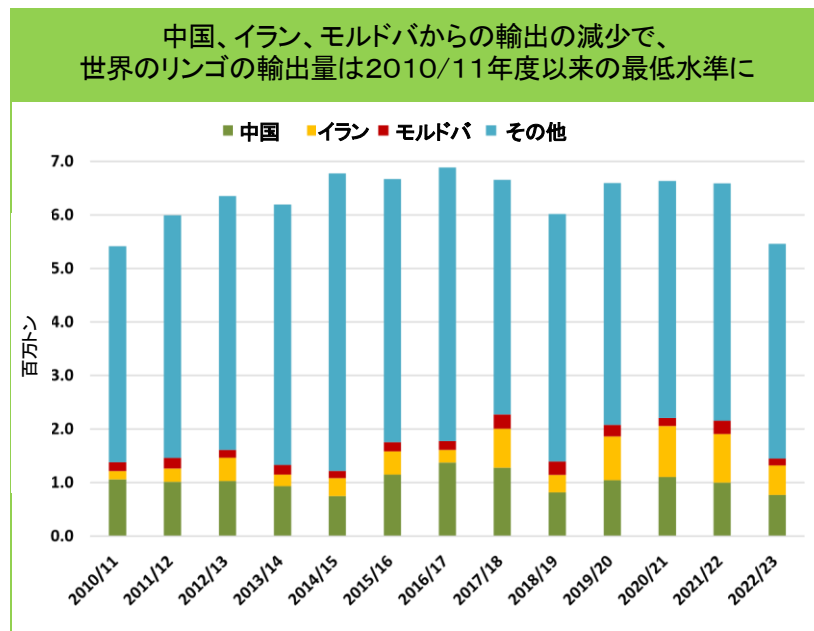
2月中旬に収穫が始まった時、サイクロンガブリエルがニュージーランドの北島を襲い、果樹園が広範囲に破壊されたことでこれらの期待は打ち砕かれた。最も打撃を受けた地域は、ニュージーランドの生産量の3分の2を占めるホークスベイ地方とギズボーン地方であった。果樹のほぼ半分が影響を受け、4分の1近くが破壊されたか、または水没や深い土砂に覆われた結果として枯死するものと見込まれる。また、ほとんどの商業的果樹園が依存している灌漑施設等のインフラにも大きな被害があった。

その結果、2022/23年度については、生産量は6万トン減の45万3千トン、輸出量は7万トン減の27万トンと、いずれも2009/10年度以来の低水準になると予測される。生産者が果樹園を復旧するのに伴い、果樹の転換のペースが前年よりも加速し、ロッキット、エンヴィイ、ピンクレディーなど、収益性の高い多収品種の栽培面積の増加ペースが加速すると予想される。しかし、リンゴ業界がガブリエルの被害全体から完全に回復するには何年もかかる可能性がある。

<リンゴ>

世界の2022/23年度のリンゴ生産量は、中国での悪天候による減収のため430万トン減の7,840万トンと予測される。リンゴの輸出量は、中国、イラン、モルドバからの輸出の大幅な減少により、100万トン以上の減となる550万トンと推定される。

中国の生産量は、最大の産地である陝西省と山東省で開花時の高温により着果数が減少したため、これらの省の生産量の減少により、約500万トン減の4,100万トンと予想される。市場収益の低さから、北部と西部の一部の省で果樹の伐採が進んでおり、また農家人口の高齢化も果樹園の管理に影響を与えている。輸出量は、供給量の減少に伴い20%以上の減となる77万トンと推定される。ロシアへの輸出は、病害虫を理由とする2019年8月からの輸入禁止が2022年2月に解除されたのを受けて再開されたが、その量は他の市場への販売の低迷を部分的に相殺するに過ぎないと予想される。輸入量は、販売年度(7月～翌年6月)の初期にニュージーランドからの出荷が増えたため、1万トン増の8万5千トンと予測される。



EUの生産量は、ポーランドで良好な開花と受粉により着果量が増えたことで生産量が増加したことから、全体では微増の1,280万トンと予測される。ポーランドでの生産量の増加は、古い果樹園の多収性新品種への転換が続いていることにも起因している。供給量の増加にもかかわらず、輸出量は10万トン減の110万トンと推定される。冷蔵コストの上昇は輸出のために貯蔵する意欲をそぎ、加工仕向量を増やし、域内の消費量を1,200万トンに押し上げると予想される。供給量が多いため、輸入需要は前年比4万1千トン減の29万トンと見込まれる。

米国の生産量は、ワシントン州の悪天候による減収がミシガン州の記録的な増収を上回り、7万5千トン減少して、2012/13年度以来の最低水準である430万トンと推計される。ミシガン州では生育期間を通して理想的な天候に恵まれ、生産量は前年のほぼ2倍となった。米国農務省農業統計局(NASS)は業界を調査し、

2023年5月の「非柑橘果実及びナッツ類に関するサマリーレポート2022」で、米国の生産量を更新した。供給量の減少が引き金となって輸出量が20%近く減少し、59万トンと2003/04年度以来の最低水準となり、輸出量は3年連続の減少となるものと予想される。供給量の減少にもかかわらず、ニュージーランドからの輸出量の減少により、輸入量は10万トンに縮小すると予想される。

チリの生産量は、栽培面積の継続的な減少が良好な生育条件による収量の増加によって大部分相殺されるため、微減の100万トンと予測される。生産量の減少により、輸出量は58万5千トンに減少すると予想される。

メキシコの生産量は、干ばつのあった昨年よりも収量がわずかに増加するものの、64万トンでほぼ横ばいと予想される。栽培面積は郊外の都市開発の圧力を受けて減少を続けているが、一部の生産者は、リンゴよりも収益性が高く、水の必要量が少ないイチジクなどの他の作物に転換している。輸入量は、インフレ率の上昇と個人消費の減少が需要を減退させているため、3万1千トン減の23万5千トンと予想される。

ニュージーランドの生産量と輸出量は、生産量の65%以上を占める北島が2月にサイクロンガブリエルによる深刻な被害を受けたため、2009/10年度以来の最低水準に落ち込むと予測される。良好な生育条件により南島の生産量が増加するが、サイクロンによる損失を部分的に補うに過ぎないと予想される。サイクロンによる被害のため、生産量は6万トン減の45万3千トン、輸出量は20%以上の減となる27万トンと予測される。

南アフリカの生産量は、2年続きの記録的な収穫量の後の果樹の回復のため、5万1千トン減の120万トンと予測される。底堅い生産量にもかかわらず、輸出品質の果実の供給量の減少と冷蔵コストの高騰により、輸出量は9万トン減の53万5千トンと予測される。西ケープ州の最大の産地では降雹被害のため低品質のリンゴが多くなり、本来輸出されるはずであった果実を加工用に仕向けると予想され、一方貯蔵コストの高騰と電力負荷の軽減措置(計画停電)は、国内市場での売り急ぎを招くと予想される。

トルコの生産量は、良好な生育条件と新品種の多収性により、27万7千トン増の480万トンと推定される。輸出量は、供給量の増加により41万トンに増加すると予想され、サウジアラビアとロシアへの出荷が増加すると予想される。

インドの生産量は、開花期と着果期に十分な雨が降ったため、5万トン増の240万トンと予想される。不十分なコールドチェーンネットワークと限られた流通によって、増加した国内供給量へのアクセスが妨げられているにもかかわらず、イランとEUからの供給量の減少により、輸入量は6万トン以上の減となる38万5千トンと予測される。

<生食用ブドウ>

世界の2022/23年度の生食用ブドウの生産量は、中国とトルコでの良好な生育条件による増収がチリとインドでの減収を上回ったため、4年連続の増加となる110万トン増の2,730万トンと予測される。輸出量は、中国とペルーの増加がチリと南アフリカの減少を相殺するため、370万トンの横ばいと予想される。

中国の生産量は、良好な生育条件と栽培技術の継続的な改善による収量の増加により、62万トン増の1,260万トンと推定される。供給量の増加により輸出量は39万トンに増加し、アジア市場、特にタイとベトナムへの出荷が増加すると予想される。輸入量は、オフシーズンの安定的な貿易により、18万トンの横ばいと予想される。

トルコの生産量は、ブドウ園が昨年の霜害から回復し、また良好な生育条件により収量が増えるため、38万トン増の220万トンと予想される。輸出量は昨年まで3年連続で増加したが、ウクライナの需要の弱さがロシア及びサウジアラビアとの貿易の増加を上回るため、供給量の増加にもかかわらず、3万9千トン減の22万5千トンと予測される。生産量の増加と輸出量の減少により、消費量は再び200万トンを超えると予想される。

インドの生産量は、2年連続で季節外れの大雨の影響を受け、290万トンでほぼ横ばいと予測される。また、輸出品質のブドウの量が減少する。干しブドウの国内需要の高まりもブドウを干しブドウ生産に向かわせ、輸出量をさらに縮小させている。生鮮ブドウの入手可能性の低下により、輸出量は2万トン減の25万5千トンと

予想され、特に最大の市場であるバングラデシュへの出荷が減少すると見込まれる。

EUの生産量は、イタリア、スペイン、ポルトガルで新しい種なし品種の園地が成園化するため、2年続きの減収の後16万1千トンの増加に転じ、160万トンに回復すると予想される。供給量が増加し、高い運賃と輸送コストが輸出量を17万トンのほぼ横ばいに留めているため、消費量は、200万トン以上に増加すると推定される。輸入量も、チリからの輸入の増加が南アフリカとブラジルからの輸入の減少で相殺されるため、59万トンのほぼ横ばいとなる。

米国の生産量は、水不足が引き続き生産量に影響し、また降霜により収量が下がるため、81万1千トンの微減で、4年連続の減少となるものと推定される。米国農務省農業統計局(NASS)は業界を調査し、2023年5月の「非柑橘果実及びバナツツ類に関するサマリーレポート2022」で、米国の生産量を更新した。供給量の減少により、輸出量は主要市場であるカナダとメキシコを含めて微減となり、24万7千トンと予想される。輸入量は、ペルーでの生産量の増加と、販売年度(5月から翌年4月)の初めにチリからの出荷が増加したことから、史上最高の74万6千トンに達すると予測される。米国の生産量に占める輸出量のシェアは30%に減少し(2017/18年度から2021/22年度の平均は35%であった)、輸入量の増加と相まって、消費量を史上最高の130万トンに押し上げると見られる。

ペルーの生産量は、良好な生育条件と新植園地からの出荷量の増加により、5万トン以上増えて76万6千トンに達し、8年連続で増加すると予想される。生産量の増加に伴い、北米、特に米国への輸出が急増し、輸出量は約6万トン増の59万5千トンと推定される。これが実現すれば、ペルーはチリから世界一の輸出国の地位を奪い、生産量ではチリを抜いて世界第9位となる。

チリ生産量は、好ましくない生育条件と栽培面積の減少により、7万トン近くの減となる72万5千トンと予測される。一部の生産者は古い品種を新しい多収性品種に改植しているが、他の地域では、サクランボやクルミなど収益性の

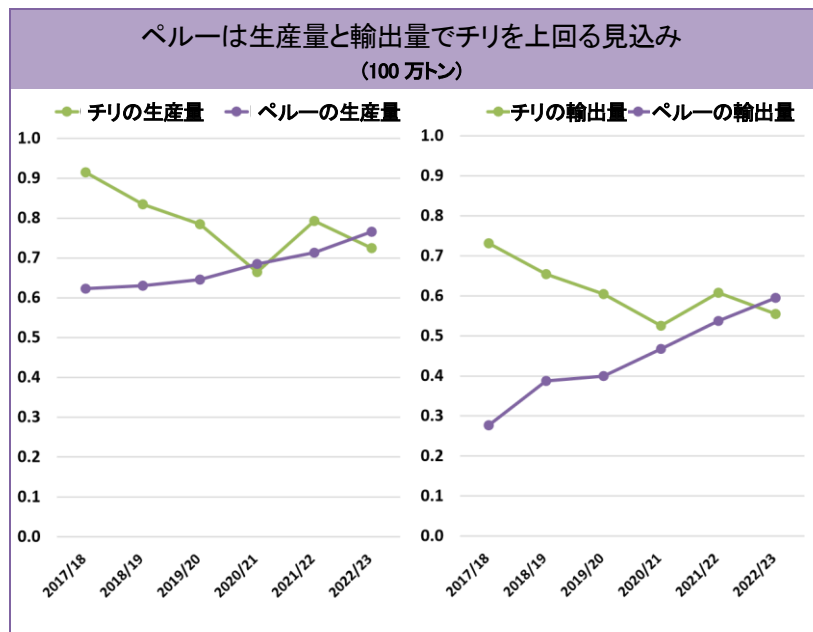
より高い作物に転換しており、多収性品種への改植による増収を相殺している。供給量の減少は、輸出量を5万3千トン減の55万5千トンに押し下げると予想される。

オーストラリアの生産量は、春の大雨により一部の生産者に病害管理の問題が生じたため、微増の20万トンと予想される。輸出量は、2年間のコロナ禍関連の減少から回復し、物流の改善が特に中国向けの出荷を活性化させることから、2万トン増の13万トンと予測される。ただし、涼しく雨の多い天候による出荷開始の遅れのため、出荷シーズン終盤に完熟する量が制約され、力強い回復が妨げられると予想される。

<ナシ>

世界の2022/23年度のナシ生産量は、EUの作柄の回復を中国の悪天候による減収が上回るため、74万トン減の2,370万トンと予測される。輸出量は、中国の減少により170万トンに減少すると見込まれる。

中国の生産量は、最大の産地である河北省で厳しい降霜のために着果が妨げられたため100万トン減の1,790万トンと予想される。栽培面積も、収益性の低下により果樹が伐採され、地方政府も穀物への転換を奨励しているため、2年連続で減少する。輸出量は、供給量の減少により、7万2千トン減の41万トンと推定さ



れ、輸入量は新規の輸入先である南アフリカから供給によって最大1万2千トンの増加が見込まれる。

EUの生産量は、オランダの生育条件が良く、イタリアの果樹園が昨年の降雪、降霜、低温の影響から回復するため、24万トン増の210万トンと予測される。輸出量は、EU産リンゴとナシのベラルーシへの一時的な輸出禁止が2022年4月26日に終了したことから、1万1千トン増の36万トンと推定される。国内供給の回復により輸入需要が減り、輸入量は2万2千トン減の16万5千トンと予想される。

米国の生産量は、カリフォルニア州での好天による増収が、ワシントン州とオレゴン州での低温による小玉化と減収によ

って相殺されるため、58万3千トンの横ばいと推定される。米国農務省農業統計局(NASS)は業界を調査し、2023年5月の「非柑橘果実及びナッツ類に関するサマリーレポート2022」で、米国の生産量を更新した。輸出量は、最大の市場であるメキシコで高価格とインフレにより需要が減退し、1万1千トン減の10トンと予想される。輸入量は、中国と韓国からのシーズン初期の出荷の増加がチリからの供給の減少を相殺するため、7万トンの横ばいと予想される。

アルゼンチンの生産量は3万3千トン増の59万トンと予測されるが、高温のため小玉化し、成熟が早くなり、生産量のそれ以上の増加が妨げられ、果実の品質に影響を与えた。供給量の増加により、輸出量は3万トン増の30万5千トンと予想され、量が増える低品質の果実は近隣の中南米諸国に向かうものと予想される。

チリは生産量は減少傾向が続き、栽培面積の減少により1万1千トン減の21万2千トンと予想される。生産者はアバテフェタル等の知名度の低い品種の市場の多様化に苦労しているため、栽培面積は2019/20年度以降20%近く減少した。輸出量は供給量の減少により6千トン減の11万トンと予測される。

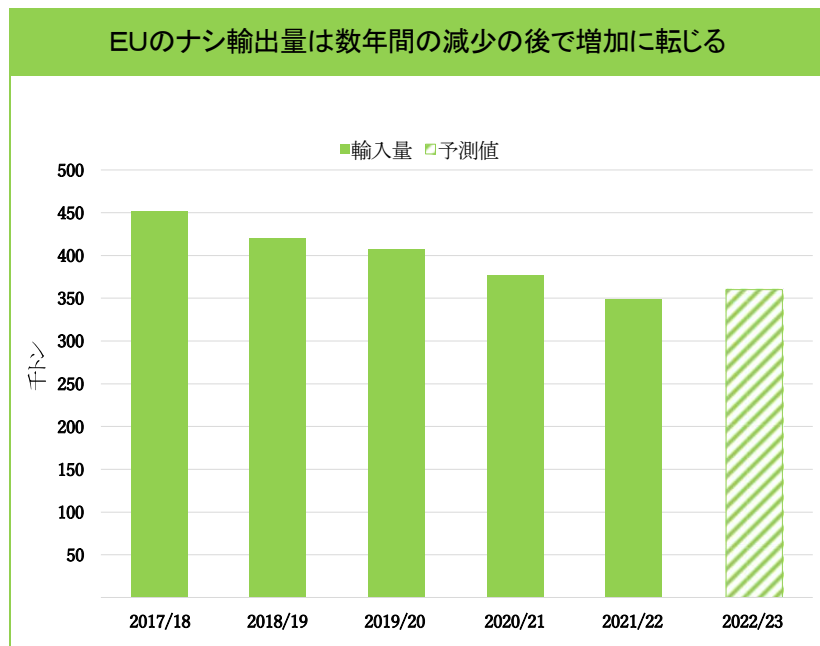
南アフリカは生産量は、雹を伴う嵐と、昨年の記録的な収穫量の後で収量が平常に戻るため、3万6千トン減の47万トンと予測される。生産量の減少にもかかわらず、中国への新しい市場アクセスの獲得と、インド向け果実の輸送中低温処理が承認されたことによって、供給量減少の影響が緩和されるため、輸出量は1万2千トン減の27万5千トンと予測される。

留意事項

欧州連合の定義： 関税同盟の27か国(国名省略)

販売年度：

- **リンゴ** - 米国とメキシコは8月から翌年7月。その他のすべての北半球の国は、7月から翌年6月。南半球の国々は、分割表示の2年目として示される暦年。
- **生食用ブドウ** - 米国とメキシコは5月から翌年4月。他のすべての北半球の国は、6月から翌年5月。南半球のアルゼンチン、オーストラリア、チリ、ペルー、南アフリカは、10月から翌年9月。ブラジルは、分割表示の2年目として示される暦年。
- **ナシ** - 北半球の国々は7月から翌年6月。南半球の国々は、分割表示の2年目として示される暦年。



リンゴ(生鮮) 主要国の生産需給統計(千トン)

	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 12月推計	2022/23 6月推計
生産量						
中国	33,000	42,425	44,066	45,973	41,000	41,000
EU	14,810	11,480	11,935	12,277	12,772	12,772
トルコ	3,600	3,620	4,300	4,493	4,770	4,770
米国	4,479	4,852	4,505	4,375	4,494	4,300
インド	2,371	2,370	2,300	2,300	2,350	2,350
イラン	2,241	2,207	2,207	2,207	2,207	2,207
ロシア	1,611	1,779	1,540	1,540	1,540	1,540
南アフリカ	894	991	1,164	1,201	1,100	1,150
ウクライナ	1,154	1,115	1,115	1,115	1,115	1,115
チリ	1,210	1,124	1,099	1,040	1,040	1,010
その他	6,480	6,619	6,453	6,213	6,373	6,200
合計	71,849	78,581	80,683	82,734	78,760	78,413
国内消費量						
中国	32,275	41,487	43,033	45,051	40,300	40,315
EU	13,839	10,659	11,175	11,460	11,842	12,012
トルコ	3,324	3,412	4,013	4,096	4,351	4,361
米国	3,884	4,098	3,838	3,757	3,939	3,810
インド	2,384	2,250	2,400	2,577	2,600	2,550
ロシア	2,323	2,455	2,259	2,116	2,080	1,910
イラン	1,916	1,389	1,251	1,300	1,457	1,657
ウクライナ	1,110	1,114	1,109	1,066	1,086	1,081
ブラジル	1,246	1,028	936	1,078	1,043	1,053
メキシコ	794	1,017	973	899	904	874
その他	8,520	9,130	9,126	9,102	8,880	8,615
合計	71,615	78,040	80,114	82,503	78,482	78,236
輸入量						
インド	277	194	377	448	430	385
ロシア	795	763	796	587	550	380
イラク	321	405	406	452	375	340
英国	343	320	330	328	330	300
ベトナム	158	233	278	300	280	300
EU	389	378	325	331	320	290
メキシコ	247	257	260	266	265	235
バングラデシュ	188	271	266	252	215	195
カナダ	203	205	190	206	215	195
サウジアラビア	182	195	174	179	185	190
その他	2,991	3,196	2,973	3,147	2,980	2,609
合計	6,094	6,416	6,374	6,496	6,145	5,419
輸出量						
EU	1,359	1,199	1,084	1,149	1,250	1,050
中国	818	1,042	1,102	997	800	770
米国	741	861	775	723	670	590
チリ	674	660	644	603	605	585
イラン	325	818	956	907	750	550
南アフリカ	469	509	589	625	560	535
トルコ	278	209	288	398	420	410
ニュージーランド	391	400	356	341	385	270
モルドバ	251	217	150	253	220	130
セルビア	184	206	185	165	160	115
その他	530	476	506	428	468	456
合計	6,020	6,596	6,634	6,588	6,288	5,461

注: 米国とメキシコの販売年度は8月から翌年7月。その他のすべての北半球の国は7月から翌年6月。南半球の国々は分割表示の2年目として示される暦年。

ブドウ(生食用、生鮮) 主要国の生産需給統計(千トン)

	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 12月推計	2022/23 6月推計
生産量						
中国	9,900	10,800	11,450	11,980	12,600	12,600
インド	2,900	2,280	2,300	2,900	2,850	2,850
トルコ	1,950	2,050	2,220	1,857	2,236	2,236
ウズベキスタン	1,603	1,607	1,607	1,607	1,607	1,607
EU	1,589	1,548	1,374	1,420	1,581	1,581
エジプト	1,350	1,385	1,170	1,435	1,480	1,480
ブラジル	1,485	1,436	1,436	1,436	1,436	1,436
米国	997	905	871	826	850	811
ペルー	630	645	685	713	766	766
チリ	835	785	665	793	737	725
その他	1,147	1,316	1,311	1,298	1,274	1,254
合計	24,386	24,757	25,089	26,264	27,417	27,346
生鮮国内消費量						
中国	9,873	10,677	11,215	11,810	12,395	12,390
インド	2,356	1,803	1,830	2,285	2,270	2,288
トルコ	1,771	1,845	2,006	1,595	1,966	2,013
EU	1,916	1,872	1,766	1,851	1,941	2,001
ブラジル	1,455	1,394	1,364	1,391	1,409	1,393
ウズベキスタン	1,485	1,487	1,478	1,383	1,402	1,367
エジプト	1,235	1,248	1,027	1,273	1,307	1,317
米国	1,199	1,252	1,227	1,281	1,340	1,310
ロシア	307	308	369	399	362	432
メキシコ	236	273	272	266	262	275
その他	2,115	2,171	2,229	2,212	2,231	2,094
合計	23,948	24,329	24,782	25,747	26,884	26,880
輸入量						
米国	571	672	670	713	745	746
EU	520	501	572	604	520	590
ロシア	290	288	351	380	340	410
英国	268	275	269	271	280	260
カナダ	179	189	191	184	190	185
中国	262	239	194	181	170	180
ベトナム	100	113	147	99	135	135
メキシコ	102	91	98	103	115	130
タイ	124	131	140	103	135	130
香港	259	238	201	119	110	120
その他	682	680	742	833	751	696
合計	3,355	3,415	3,575	3,590	3,491	3,582
輸出量						
ペルー	388	400	468	537	585	595
チリ	655	605	526	608	555	555
中国	289	362	428	351	375	390
南アフリカ	276	284	322	336	310	300
インド	250	185	267	275	270	255
米国	368	325	314	258	255	247
ウズベキスタン	118	120	129	224	205	240
トルコ	179	205	215	264	270	225
メキシコ	147	224	207	196	200	202
EU	193	177	180	173	160	170
その他	627	653	614	537	519	550
合計	3,490	3,540	3,669	3,758	3,704	3,729

注：米国とメキシコの販売年度は5月から翌年4月。他のすべての北半球の国は6月から翌年5月。南半球のアルゼンチン、オーストラリア、チリ、ペルー、南アフリカは、10月から翌年9月。ブラジルは、分割表示の2年目として示される暦年。

ナシ(生鮮) 主要国の生産需給統計(千トン)

	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 12月推計	2022/23 6月推計
生産量						
中国	14,000	17,314	17,815	18,876	17,850	17,850
EU	2,568	2,059	2,373	1,843	2,083	2,083
アルゼンチン	600	640	615	557	700	590
米国	726	645	593	589	613	583
トルコ	520	530	550	530	560	560
南アフリカ	413	438	461	506	450	470
インド	300	310	308	310	312	312
ロシア	242	290	247	247	247	247
韓国	203	201	133	210	244	244
チリ	252	222	233	223	217	212
その他	585	577	579	578	581	577
合計	20,410	23,226	23,907	24,469	23,857	23,728
国内消費量						
中国	13,645	16,707	17,345	18,404	17,442	17,452
EU	2,305	1,823	2,172	1,681	1,888	1,888
米国	654	586	560	547	593	553
トルコ	478	479	477	436	463	475
ロシア	461	436	446	429	441	421
インド	288	327	330	338	342	347
アルゼンチン	291	300	301	283	375	285
韓国	176	170	113	186	214	214
日本	237	197	197	197	197	196
南アフリカ	188	212	214	219	200	195
その他	1,542	1,799	1,620	1,666	1,645	1,638
合計	20,265	23,037	23,775	24,387	23,800	23,665
輸入量						
ロシア	261	194	241	183	195	175
EU	157	172	175	187	165	165
インドネシア	145	236	196	215	180	160
ブラジル	154	138	121	133	135	155
英国	118	100	105	103	110	115
ベラルーシ	118	119	112	78	115	110
ベトナム	63	133	97	101	95	100
香港	85	76	81	77	80	75
メキシコ	92	84	73	72	70	75
米国	73	72	75	69	80	70
その他	426	495	454	485	484	479
合計	1,691	1,818	1,729	1,702	1,709	1,679
輸出量						
中国	366	619	480	482	420	410
EU	420	407	377	349	360	360
アルゼンチン	310	340	315	275	325	305
南アフリカ	226	227	247	287	250	275
チリ	132	114	127	116	110	110
米国	144	130	109	111	100	100
トルコ	42	51	73	94	97	85
ベラルーシ	70	16	54	27	55	45
韓国	27	31	19	24	30	30
オーストラリア	9	9	9	8	7	10
その他	15	15	11	11	12	12
合計	1,760	1,959	1,821	1,784	1,766	1,742

注：北半球の国々の販売年度は7月から翌年6月。南半球の国々は、分割表示の2年目として示される暦年。